

斑点米カメムシ類の適期防除を徹底しましょう

斑点米カメムシ類（写真）は、水稻の籾を吸汁し、不稔や斑点米を引き起こす重要害虫です。

7月下旬に実施した水稻における斑点米カメムシ類すくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類のうち、特に大型のカメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、イネカメムシ、ミナミアオカメムシ）の頭数は平年よりやや多い状況でした（表1）。また、**周辺より出穂が早いほ場で多発生している地点もありました。**

気象庁の1か月予報（7月23日発表）によると、向こう1か月の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並となる見込みであるため、斑点米カメムシ類の活動や増殖に適した気象条件が継続すると考えられます。

被害防止のため、斑点米カメムシ類の発生状況や水稻の生育状況に合わせた適期防除を徹底しましょう。

表1 水稻における斑点米カメムシ類捕獲状況（調査時期：7月21～23日）

	調査 地点数	発生地点率(%)		頭数(20回振り)	
		斑点米 カメムシ類	大型の カメムシ類	斑点米 カメムシ類	大型の カメムシ類
県平均※	64	23.4[33]	14.1[17]	2.1[1.6]	1.2[0.8]
県北部	26	19.2	19.2	1.3	0.8
県中部	22	31.8	18.2	4.0	2.4
県南部	16	18.8	0	0.6	0

※ 県平均の[]内は平年値（10か年の平均値（平成28年～令和7年））

1 防除対策

（1）イネカメムシ

不稔被害を抑制するため、出穂期頃に薬剤散布した後、斑点米被害を抑制するため、出穂期から7～10日後に薬剤散布を実施する。その後も発生が認められる場合は、7～10日間隔で1～2回追加防除する。

（2）斑点米カメムシ類

斑点米被害を抑制するため、出穂期から7～10日後に薬剤散布を実施する。その後も発生が認められる場合は、7～10日間隔で1～2回追加防除する。

（3）注意事項

周辺より出穂が早い、または遅い品種・作型のほ場では、被害が集中しやすいため防除を徹底する。

薬剤抵抗性の発達を防ぐため、RACコード（殺虫剤分類）の異なる薬剤をローテーションで使用する（「[RACコードを参考に同系統の薬剤の連用を避けましょう（水稻）](#)」）。

（4）詳細は、「[栃木県総合防除計画](#)」、「[栃木県農作物等病虫害雑草防除指針](#)」等を参照。

2 蜜蜂被害軽減対策

（1）斑点米カメムシ類に対する薬剤防除は、水田周辺のミツバチに影響を及ぼす可能性があるため、地域の養蜂家に薬剤防除日を事前に周知する等の積極的な対応を行う。

（2）ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8時～12時）を避け、可能な限り早朝又は夕方に農薬散布を行う。

（3）詳細は、「[蜜蜂被害軽減対策の推進について（農林水産省）](#)」を参照。

表2 水稻のカメムシ類に登録のある主な薬剤（令和8（2026）年7月24日現在）

IRAC コード	農薬名	成分	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数
1B	スミチオン乳剤	MEP	1,000 倍	収穫 21 日前まで	2 回以内
2B	キラップフロアブル	エチプロール	1,000～2,000 倍	収穫 14 日前まで	2 回以内
3A	トレボン EW	エトフェンプロックス	1,000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内
4A	スタークル液剤 10	ジノテフラン	1,000 倍	収穫 7 日前まで	3 回以内
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	4,000 倍	収穫 7 日前まで	3 回以内
4C	エクシードフロアブル	スルホキサフロル	2,000 倍	収穫 7 日前まで	3 回以内

大型のカメムシ類



クモヘリカメムシ

イネカメムシ

ホソハリカメムシ

ミナミアオカメムシ

小型のカメムシ類



アカスジカスミカメ

イネホソミドリカスミカメ

写真 栃木県における主要な斑点米カメムシ類

○ お問い合わせ等

- ・農業総合研究センター環境技術指導部防除課（Tel 028-665-1244）までお問い合わせください。
- ・病害虫情報発表のお知らせは、[X「栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)」](https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html)、[農業総合研究センターHP](https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html)でも御確認いただけます。
- ・カメムシ防除作戦 HP (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html>) も御確認ください。



X「栃木県農政部」



農業総合研究センターHP



カメムシ防除作戦 HP